

平成 24 年度広域ヨーロッパ研究センター(WERC)活動報告

1. 講演会・ワークショップの開催

センター研究員と外部講師による講演会・研究会・ワークショップを、「広域ヨーロッパとアジアー東西の交叉に見る過去と現在」を共通テーマとして開催した。具体的には、以下の講演会・ワークショップの個別テーマを実施した。

- ソフィー・クーレ（パリ第7大学・教授）10月29日（月）
「西欧知識人と20世紀の共産主義ーユートピアと誤解ー」
- 林田敏子（摂南大学外国語学部・准教授）2012年11月5日（月）
「第一次世界大戦とジェンダー」
- 山口みどり（大東文化大学法学部・教授）2012年11月9日（金）
「ヴィクトリア朝の家族像」
- 原 聖（女子美術大学芸術学部教授）
「言語から見たヨーロッパとアジア」1月24日（木）
- 西村可明所長（一橋大学名誉教授）
「極東ロシアの経済発展と日本」2月22日（金）
- イオアン・パシユク (Ioan Pascu)（欧州議会外交委員会副委員長）
「EU Today（今日のEU）」

2. ウェブサイトの運営

センターが運営するウェブサイト (<http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp>) の内容および閲覧者にたいするサービスを充実させる一環として、シンポジウムと講演会・ワークショップの予告と記録の公開をおこなった。

3. 「広域ヨーロッパ論」共通テキスト

広域ヨーロッパ共通テキスト（電子ブック）の作成に向け、WERC内での研究の相互理解をふかめる方針を立てた。研究会を開催するとともに（「8. WERC研究会」を参照）センター研究員の学部ゼミ間の交流をうながす合同発表会を組織した。

4. 教育関連資料の提供

昨年度、試験的に実施して好評を得たUstreamによる合同ゼミ発表会の中継を実施した。告知不足があり、ソーシャルストリームでのコメントは得られなかったが、遠距離からの参加を可能にする手段として認知された（視聴者は合計で30前後）。

5. 「内なる国際化」および協定校との学術交流の推進

外国人留学生と研究員・本学部学生との交流の強化と拡大を図るために、協定校のボアジチ大学（トルコ）とブレーメン経済工科大学（ドイツ）からの留学生と、当センター研究員および本学部・研究科学生との間で以下のような取り組みを実施した。

第一に、留学生が安心して本学での留学生生活を始めることができるよう、来日間も

ない留学生を WERC 研究会に迎え、個別ニーズに応じたガイダンスを行った。センター員による研究報告について談話した他、センター員の研究内容や当学部における講義科目についての紹介と履修に関する助言を行うなどの留学生支援を行った。

第二に、当センター員、剣持教授、小窪講師（全学国際交流委員会副委員長）、佐藤講師、ファイファー准教授が国際交流委員会の委員として国際交流を積極的に実施し、本学学生の海外留学、および協定校より派遣された留学生を様々な面で支援してきた。

第三に、これら留学生には当センター員のファイファー准教授が担当する演習に参加させている。ここではヨーロッパの社会・経済について口頭発表をさせた上で、比較文化の視点から学部のゼミ生とともに日本と欧州の歴史、現代社会などについて活発な討論を行い、学生同士の交流も深めるため、学内・学外の様々な活動・催しも実施した。

第四に、留学生の日本文化への知識・関心を高めるため、後期に「現代日本文化入門」の講義をセンター員のファイファー准教授が英語で行っている。そこで留学生に日本文学、映画、漫画、社会問題、歴史観などについて説明し、また留学生が関心を持っているテーマについて発表を行わせた。

第五に、ファイファー准教授による演習・講義のみならず、センター員担当講義科目では留学生支援のため本学学生との共同作業・支援を促進した。受講者による研究発表を課すセンター員の講義では留学生を交えたチーム編成を組み、講義時間のみならずその準備時間においても活発な学生間コミュニケーションを促すこととなった。留学生のモチベーションのみならず、他の学生に対する刺激となった。

6. リール政治学院との交換教授に向けた準備

県立大学から、前山教授、小窪講師、六鹿教授などを交換教授候補として提案しており、先方からは、英語での講義、日本かヨーロッパに関わる講義内容を期待されているので、具体的な派遣者選定に着手した。先方からは 2013 年 7 月に Guillaume Duseigneur 氏、こちらからは小窪氏を 2013 年秋に派遣することが決まった。

7. ブリュッセル自由大学 (ULB) との学術協力活動

ブリュッセル自由大学との大学間協定に基づいて、具体的な学術協力活動の開始に向け相手校と協議に入る。2013 年 3 月 11-12 日、本学教員がブリュッセル自由大学 (ULB) を往訪し、ULB 教員との交流を行った。当センターからは小窪研究員が、ULB のヨーロッパ研究所 (IEE) の Mario Telo 教授、Frédéric Ponjaert 研究員と会い、今後の両大学間のより幅広い協力について意見交換を行った。

8. WERC 研究会

- ・米山優子「イギリスの地域言語—EU の言語政策との関連」(2012 年 10 月 2 日)
- ・小窪千早「ドゴール外交とヨーロッパ～1960 年代の対東側接近外交とその射程～」(2012 年 12 月 4 日)

9. 研究員の科学研究、国際会議報告など

研究課題「歴史認識の越境化とヨーロッパ公共圏の形成—学術交流、教科書対話、博物館、メディア—」 科研基盤 B 研究代表 剣持久木

2012年9月に、ポーランド、フランスで現地調査を実施した。10月にソフィー・クーレ教授を招請した。12月には、シドニー大学准教授リオネル・バビッチ氏らと共に日仏シンポジウム「歴史と和解」を開催した。2013年3月には、ポーランド学術アカデミー、ベルリン歴史研究所所長のロベルト・トラバ氏を招請し、「ドイツ・ポーランドの記憶文化」をテーマにシンポジウム、ワークショップを開催した。同3月には、国立民族博物館と協力して、フランス学術研究センターのアネット・ヴィヴィオルカ教授を中心に「ショアの表象」をテーマにシンポジウムを開催した。

研究課題「「狭間の地政学」をめぐる広域ヨーロッパ研究」

科研基盤 C 研究代表 六鹿茂夫

広域ヨーロッパ国際政治について、EU, NATO、ロシア、トルコ、BSEC, GUAM、バルカン、コーカサス、アメリカの対黒海政策などを中心に研究を進め、以下の国際会議で成果を発表した。

- ・"Visegrad Group and Japan, together for Eastern Partnership"国際会議（外務省、ポーランド大使館共催、2月5日）にて基調報告 “The Eastern Partnership, Visegrad Four and Japan” を行うとともに、コメンテーターを務めた。
- ・第4回「日本—黒海対話」国際会議（日本グローバルフォーラム、BSEC 共催、日本外務省後援、2月20日～21日）にて基調報告 “International Politics in Transition in the Black Sea Area” を行った。

研究課題「アメリカの道義的外交を取り巻く国内的抗争」

科研基盤 C 研究代表 佐藤真千子

1970年代以降の米国外交について、ベトナム戦争政策を支持し、諸外国への民主化支援等にたずさわってきた米国内の民間団体の活動と思想的特徴を検証し、彼らに代表されるような米国人の道義的外交に対する考え方について、その意義と問題点を考察している。24年度の研究では、特に70年代～80年代のソーシャル・デモクラットの活動と思想的変化と全国民主主義基金（NED）設立の関係、旧ソ連圏における「自由」の支援について、関係する当事者への聞き取り調査を中心に実施した。

梅本哲也研究員が、「日米露3極有識者会合」（日本国際問題研究所、米戦略国際問題研究所(CSIS)、露科学アカデミー国際経済国際関係研究所(IMEMO)共催、於IMEMO、25年6月19～20日)に討論者として参加し、「共同声明」作成に関わった。

